

O-175 38歳女性の2度の早期流産と出産を通じた妊娠の脈状と予後の考察

○山田恵美^{1,2} 吉岡広記^{1,2}

1) 日本鍼灸研究会 2) 吉岡鍼灸院

【目的】 同一女性の3度にわたる妊娠の鍼灸治療を通じて、妊娠における脈状の意義を考察する。

【対象】 自営業。肥人。不規則な生活を送り、常に寝不足の状態にある。治療は週に4～6回（出産後は月に1～2回）。日頃は、人迎気口診：気虚寒湿のやや逆、六部定位診：肺経虚證。月経周期27～30日。

【流産1】 日頃は月経予定日前に脈證の変化はないが、X年7月下旬は虚勞寒湿の順となった。脈證はそのまま推移し、9週目に稽留流産となった。この間の治療では、1度も気口脈が沈むことがなかった。掻爬手術後より28日で月経が始まり、日頃の脈證に戻った。

【出産】 X+1年2月中旬、月経予定日前より虚勞寒湿の順となったが、治療後に気口脈が沈瀆となった。6週目以降は気虚寒湿のやや逆となった。10月初旬に相当の無理をし、臍帯下垂に加え逆子となり、下旬に帝王切開となった。出産後は虚勞寒湿で推移し、授乳中ながらX+2年6月中旬より月経が再開した。

【流産2】 X+2年8月中旬、月経予定日頃より虚勞虚寒の逆となり、つわりもなく6週目に流産となった。この間の治療では、人迎気口ともに脈が沈むことはなかった。流産後は出産後の脈證に戻った。

【考察】 上記3例は、月経予定日頃より日頃の陽虚から陰虚に転じており、予後が悪い。その中で腎の消耗度の差が道を分けたと考えられ、それが脈状の違いに現れていると認められた。治療後に陽虚となれば、腎の損耗は深刻ではなく、辛うじて妊娠を維持する力があると判定された（妊娠時の陽虚は、腎の旺気を示すと考えられる）。6週目以降の陽虚への転換は、腎の安定を示すと見られるが、気口脈が常に瀆脈を呈し、1度も滑脈とならなかったことが、腎がなお盤石ではなく、平時の消耗を如実に現していると判断された。2回目の流産は、腎の回復が不完全な中での妊娠のために、腎虚が進み虚極としての陰虚風動を呈したものと考えられた。

【結語】 気口脈の浮沈滑瀆と治療後の脈状変化は、妊娠の予後を診るうえで指標となることが示唆された。

O-176 肥瘦と右手気口脈の関係から見た妊娠の脈状と予後の考察

○吉岡広記^{1,2} 山田恵美^{1,2}

1) 日本鍼灸研究会 2) 吉岡鍼灸院

【目的】 妊婦 8 名の鍼灸治療を通じて、肥瘦と気口脈の関係から妊娠における脈診（人迎気口診）の意義を考察する。

【気口浮】 28 歳瘦人：妊娠初期は、子宮が腫れ、日頃の虚勞寒湿の順（気口~~滑~~）。治療後は必ず気口脈が沈み、ほどなく虚勞寒湿のやや逆（気口滑）となり安定。自然分娩。

33 歳瘦人：妊娠初期より日頃の虚勞寒湿の順。治療後に気口が沈脈となることは 1 度もなかった（平時は沈む）。24 週より右下肢の強いしびれと痛みを発症。36 週 2 日で胎児にチョコレート嚢胞を蹴破られ、3 日後に帝王切開。

38 歳肥人：虚勞寒湿の順と虚勞虚寒の逆→気口脈沈まず。流産（山田報告症例）。

【気口沈】 25 歳瘦人：日頃は虚勞寒湿の順。妊娠初期より気虚寒湿の順（気口滑）。自然分娩。

39 歳肥人：妊娠初期より日頃~~は~~の気虚寒湿の順。つわりが重い日は気虚寒湿のやや逆または逆（人迎気口ともに~~滑~~）。自然分娩。

38 歳肥人：気虚寒湿のやや逆→帝王切開（山田報告症例）。

32 歳瘦人：妊娠初期は日頃の気虚寒湿のやや逆（気口~~滑~~）。出産予定日を 9 日過ぎたため再来院。初期と同じ脈證。治療後に虚勞寒湿の順となり、翌日も虚勞。翌々日に陣痛促進剤を投与（投与後 3 時間で出産）。

35 歳肥人：逆子のため 37 週で来院。気虚寒湿のやや逆。5 回の治療でも気口は浮脈とならず、帝王切開。

【考察】 上記症例より次のことが析出される。妊娠初期から 36 週頃までは、胎児を保育するために肥瘦に関わらず気口脈沈滑（陽虚）がもっともよい。浮脈を呈する場合でも、治療後に沈脈となれば予後は比較的よいが、変化の見られない時は注意を要する。特に肥人は、平時と妊娠時とを問わず浮脈が逆證（陽虚が順）であるため、なおさらである。また、少血を示す~~滑~~脈の時は、何らかの問題が生じている、または生じる可能性があると考えべきである。37 週以降は、出産のために浮~~滑~~がよい。

【結語】 肥瘦と浮沈滑~~滑~~を関係づけ、治療前後の脈状変化を合わせ診ることで、一定の予後判定が可能となることが示唆された。

3 8歳女性の2度の早期流産 と出産を通じた 妊娠の脈状と予後の考察

山田恵美 吉岡広記
吉岡鍼灸院

一般社団法人日本東洋医学会 利益相反（COI）開示

山田恵美

演題発表に関連し、開示すべき利益相反（COI）
関係にある企業などはありません。

目的

- ▶ 同一女性の3度にわたる妊娠の
鍼灸治療を通じた
妊娠における脈状の意義の考察

対象

▶仕事：自営業

▶肥瘦：肥人

▶月信：27～30日

▶生活：常に寝不足状態（不規則な生活）

▶治療頻度：週4～6回（出産後は月1～2回）

▶脈證 人迎氣口診：気虚寒湿のやや逆 $\tilde{K} > \bar{J}$ 遅
(気口沈濇 > 人迎沈滑)

六部定位診：肺経虚證

流産 1

▶ X年7月下旬

- ・月経前に虚劳寒湿の順となる $\underline{k} > \bar{j}$ 遅
(気口浮濇 > 人迎沈滑)
- ・日頃は月経前の脈證変化はない

▶ 9週目に稽留流産

- ・この間の治療で、1度も気口脈が沈むことがなかった
- ・搔爬手術後28日で月経が始まり、日頃の脈證（気虚寒湿のやや逆）に戻った

出産

▶ X + 1年2月中旬

- ・ 月経前に虚勞寒湿の順となる $\underset{\sim}{\kappa} > \bar{\text{丁}} \text{ 遅}$
- ・ 治療後に気口脈が沈濇となる (気口浮濇 > 人迎沈滑)

▶ 6週目以降

- ・ 気虚寒湿のやや逆となる $\tilde{\kappa} > \bar{\text{丁}} \text{ 遅}$
(気口浮濇 > 人迎沈滑)

▶ 10月下旬、帝王切開

- ・ 10月初旬に無理をし、臍帯下垂に加え逆子となる

流産 2

▶ X + 2年6月中旬より月経が再開（授乳中）

- ・ 出産後は虚劳寒湿で推移 $\underline{K} > \bar{J}$ 遅
(気口浮濇 > 人迎沈滑)

▶ X + 2年8月中旬

- ・ 月経前より虚劳虚寒の逆となる $\underline{K} > \underline{J}$ 遅
(気口浮濇 > 人迎浮濇)

▶ 6週目、流産

- ・ つわりなし

考察 1 月経前の脈状変化

	月経前 の脈状	治療後の気口脈の変化など		
		浮沈	滑濇	人迎脈
流産 1	$\underset{\sim}{k} > \bar{j}$	沈まず	変化せず	
出産	$\underset{\sim}{k} > \bar{j}$	沈む	変化せず	
流産 2	$\underset{\sim}{k} > \underset{\sim}{j}$	沈まず	変化せず	変化せず

- ▶ 日頃の陽虚（気口脈沈）から陰虚（気口脈浮）へ転ずる → 腎の虚損 = 3例とも予後不良

考察 2 出産と流産を分けたもの

	月経前 の脈状	治療後の気口脈の変化など		
		浮沈	滑濇	人迎脈
流産 1	$\underset{\sim}{k} > \bar{j}$	沈まず	変化せず	
出産	$\underset{\sim}{k} > \bar{j}$	沈む	変化せず	
流産 2	$\underset{\sim}{k} > \underset{\sim}{j}$	沈まず	変化せず	変化せず

▶ 腎の消耗度の差 → 脈状に現れている

考察 2 出産と流産を分けたもの

	月経前 の脈状	治療後の気口脈の変化など		
		浮沈	滑 濇	人迎脈
流産 1	$\underset{\sim}{k} > \bar{j}$	沈まず	変化せず	
出産	$\underset{\sim}{k} > \bar{j}$	沈む	変化せず	
流産 2	$\underset{\sim}{k} > \underset{\sim}{j}$	沈まず	変化せず	変化せず

▶ 治療後の気口脈の変化（浮沈）

沈む → 腎の旺気 = 妊娠を維持する力がある

沈まず → 腎の損耗は深刻

考察 2 出産と流産を分けたもの

	月経前 の脈状	治療後の気口脈の変化など		
		浮沈	滑 濇	人迎脈
流産 1	$\underset{\sim}{k} > \bar{j}$	沈まず	変化せず	
出産	$\underset{\sim}{k} > \bar{j}$	沈む	変化せず	
流産 2	$\underset{\sim}{k} > \underset{\sim}{j}$	沈まず	変化せず	変化せず

▶ 治療後の気口脈の変化 (滑濇)

滑 → 多血 = 予後良

濇 → 少血 = 腎は盤石ではない

考察 2 出産と流産を分けたもの

	月経前 の脈状	治療後の気口脈の変化など		
		浮沈	滑 濇	人迎脈
流産 1	$\underset{\sim}{k} > \bar{j}$	沈まず	変化せず	
出産	$\underset{\sim}{k} > \bar{j}$	沈む	変化せず	
流産 2	$\underset{\sim}{k} > \underset{\sim}{j}$	沈まず	変化せず	変化せず

▶ 出産に至ったものの

6 週目から陽虚へ転換 → 腎の一応の安定
 濇は変化せず → 平時の消耗を現す

考察 2 出産と流産を分けたもの

	月経前 の脈状	治療後の気口脈の変化など		
		浮沈	滑 濇	人迎脈
流産 1	$\underset{\sim}{k} > \bar{j}$	沈まず	変化せず	
出産	$\underset{\sim}{k} > \bar{j}$	沈む	変化せず	
流産 2	$\underset{\sim}{k} > \underset{\sim}{j}$	沈まず	変化せず	変化せず

▶ 流産 2 → 人迎脈浮濇

出産後から陰虚（腎の回復が不完全）が続く
 陰虚風動 = 腎の虚極（≡ 出産直後の状態）

結語

気口脈の浮沈滑濇と治療後の脈状変化は
妊娠の予後を診るうえで
指標となることが示唆された

*本スライドは、吉岡鍼灸院HPにて公開する。

肥瘦と右手気口脈の関係 から見た 妊娠の脈状と予後の考察

吉岡広記 山田恵美
吉岡鍼灸院

一般社団法人日本東洋医学会 利益相反（COI）開示

吉岡広記

演題発表に関連し、開示すべき利益相反（COI）
関係にある企業などはありません。

目的

- ▶ 妊娠における脈診（人迎氣口診）の意義の考察
- ▶ 肥瘦と氣口脈の関係から伺える予後

対象 妊婦 8名

▶ 気口脈浮

① 28歳瘦人、② 33歳瘦人、③ 38歳肥人

* 山田報告症例

▶ 気口脈沈

④ 25歳瘦人、⑤ 39歳肥人、⑥ 38歳肥人

* 山田報告症例

⑦ 32歳瘦人、⑧ 35歳肥人

* ①～⑧は、抄録の序列に従って付したものである。

結果

予後	脈状	妊婦	結果
良	沈滑	④瘦、⑤肥	自然分娩
	浮滑	①瘦〔沈む〕	自然分娩
不調	沈濇	⑤肥	つわりが重い日
不良	沈濇	⑥肥	臍帯下垂＋帝王切開
		⑦瘦	出産予定日を過ぎる
		⑧肥	逆子＋帝王切開
	浮濇	②瘦〔沈まず〕	帝王切開＋早産
		③肥〔沈まず〕	早期流産

考察 1 妊娠初期～36週頃の気口脈

予後良 = 沈滑 予後不良 = 浮瀼

- 肥瘦に関わらず沈滑がよい
- 浮脈を呈する場合でも、治療後に沈脈となれば比較的予後はよい（滑であればなおよい）

予後	脈状	妊婦	結果
良	沈滑	④瘦、⑤肥	自然分娩
	浮滑	①瘦〔沈む〕	自然分娩

考察 1 妊娠初期～36週頃の気口脈

予後良 = 沈滑 予後不良 = 浮瀼

- ・ 治療後も沈脈とならない時は、要注意
- ・ 肥人の浮脈は逆證であり、予後不良

予後	脈状	妊婦	結果
不良	沈瀼	⑥肥	臍帯下垂 + 帝王切開
		⑦瘦	出産予定日を過ぎる
		⑧肥	逆子 + 帝王切開
	浮瀼	②瘦〔沈まず〕	帝王切開 + 早産
		③肥〔沈まず〕	早期流産

考察 2 気口脈における滑濇の意義

濇脈は少血を示すため、何らかの問題が生じている、または生じる可能性があると考えべき

予後	脈状	妊婦	結果
不調	沈濇	⑤肥	つわりが重い日
不良	沈濇	⑥肥	臍帯下垂 + 帝王切開
		⑦瘦	出産予定日を過ぎる
		⑧肥	逆子 + 帝王切開
	浮濇	②瘦〔沈まず〕	帝王切開 + 早産
		③肥〔沈まず〕	早期流産

考察 2 気口脈における滑濇の意義

ただし、3 7 週以降は出産のために浮濇がよい

浮脈 = 陰虚 (腎虚) 濇脈 = 少血

予後	脈状	妊婦	結果
不良	沈濇	⑦瘦	出産予定日を過ぎる
		⑧肥	逆子 + 帝王切開
	浮濇	②瘦 [沈まず]	帝王切開 + 早産
		③肥 [沈まず]	早期流産

⑦は、治療後に気口脈が浮脈となる。

2 日後、陣痛促進剤投与して 3 時間足らずで出産。

結語

肥瘦と浮沈滑濇を関係づけ

治療前後の脈状変化を合わせ診ることで

一定の予後判定が可能となることが

示唆された

*本スライドは、吉岡鍼灸院HPにて公開する。

補足1

気口脈浮 ① 28歳瘦人

日頃	虚劳寒湿の順 $\underline{k} > \bar{J}$ 遅 (気口 <u>浮濇</u> > 人迎沈滑)
妊娠初期	脈證は日頃に同じ * 治療後は必ず気口脈が沈む
その後	虚劳寒湿のやや逆 $\underline{k} > \bar{J}$ 遅 * 安定 (気口 <u>浮滑</u> > 人迎沈滑)
結果	自然分娩

補足2

気口脈浮 ② 3 3 歳瘦人

日頃	虚劳寒湿の順 $k > \bar{d}$ 遅 (気口 <u>浮濇</u> > 人迎沈滑)
妊娠初期	脈證は日頃に同じ * 治療後に <u>気口脈は沈まず</u> (平時は沈む)
その後	脈證は変化せず → 2 4 週より右下肢の強いしびれと痛みを発症
結果	帝王切開 → 3 6 週 2 日で胎児にチョコレート嚢胞を蹴破られ、3 日後に

補足3

気口脈浮 ③ 38歳肥人その1

日頃	気虚寒湿のやや逆 $\tilde{K} > \bar{J}$ 遅 (気口 <u>沈</u> 濇 > 人迎沈滑)
妊娠初期	月経予定日より虚劳寒湿の順 $\tilde{K} > \bar{J}$ 遅 (気口 <u>浮</u> 濇 > 人迎沈滑) * 治療後に <u>気口脈は沈まず</u>
結果	稽留流産 (9週目)

※山田報告症例

補足4

気口脈浮

③ 38歳肥人その2

日頃	出産後より虚劳寒湿の順 $K > \bar{J}$ 遅 (気口 <u>浮濇</u> > 人迎沈滑)
妊娠初期	月経予定日より虚劳虚寒の逆 $K > \bar{J}$ 遅 (気口 <u>浮濇</u> > 人迎 <u>浮濇</u>) * 治療後に <u>気口脈は沈まず</u>
結果	早期流産 (6週目)

※山田報告症例

補足5

気口脈沈 ④ 25歳瘦人

日頃	虚劳寒湿の順 $\underline{k} > \bar{d}$ 遅 (気口 <u>浮濇</u> > 人迎沈滑)
妊娠初期	気虚寒湿の順 $\bar{k} > \bar{d}$ 遅 (気口 <u>沈滑</u> > 人迎沈滑)
その後	安定
結果	自然分娩

補足6

気口脈沈 ⑤ 39歳肥人

日頃	気虚寒湿の順 $\bar{K} > \bar{J}$ 遅 (気口沈滑 > 人迎沈滑)
妊娠初期	脈證は日頃に同じ
その後	つわりが重い日 → 気虚寒湿のやや逆 $\tilde{K} > \tilde{J}$ → 逆 (気口人迎ともに瀦) $\tilde{K} > \tilde{J}$
結果	自然分娩

補足7

気口脈沈 ⑥ 38歳肥人

日頃	気虚寒湿のやや逆 $\tilde{K} > \bar{J}$ 遅 (気口 <u>沈</u> 濇 > 人迎沈滑)
妊娠初期	月経予定日より虚劳寒湿の順 $\tilde{K} > \bar{J}$ 遅 (気口 <u>浮</u> 濇 > 人迎沈滑) * 治療後に <u>気口脈は沈濇となる</u>
その後	6週目より気虚寒湿のやや逆 (日頃 に同じ)
結果	37週目に帝王切開

※山田報告症例

補足8

気口脈沈 ⑦ 3 2 歳瘦人

日頃	気虚寒湿のやや逆 $\tilde{k} > \text{丁}$ 遅 (気口沈濇 > 人迎沈滑)
妊娠初期	脈證は日頃に同じ
その後	出産予定日を9日過ぎて再来院 脈證は妊娠初期と同じ 治療後に虚劳寒湿の順となる 翌日も虚劳 (気口脈浮濇) であった
結果	翌々日に陣痛促進剤投与 3時間で出産

補足9

気口脈沈 ⑧ 3 5歳肥人

来院時	気虚寒湿のやや逆 $\tilde{k} > \bar{j}$ 遅 (気口 <u>沈濇</u> > 人迎沈滑)
妊娠周期	3 7 週
症状	逆子
治療	5回の治療でも気口脈は浮かず
結果	帝王切開